魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:上田 陽子　　所属:川越市立高階北小学校　　記録日: 2020年 2月 11日

キーワード:見通し　コミュニケーション　動画　写真　SNS　スケジュール

【対象児の情報】

A 児

○学年　　小学 2 年の男児

○障害名　知的障害を伴う自閉症　自閉症スペクトラム症

○障害と困難の内容

・動機付け尺度(MAS)の結果(保護者、教員4人から調査)より、大声で泣く、大人をたたく、物を投げるなどの行動は、要求や逃避の機能があることが分かった。

・毎日の学校生活のルーティーンが定着していない。

・学校生活や授業の見通しの持ちにくさから、活動に不安や混乱を起こしやすい。

・1学期当初、発語は多いが、「どこに行ったの?」「何をしたの?」等の質問は無言になったり、決まったフレーズを繰り返したりする。

＜認知発達の段階＞ 太田ステージ評価 StageⅣ-1　思考が直感によって左右される段階

【活動目的】

・当初のねらい

1 1日の見通し、1時間ごとの見通しを個別に持ち、落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。

2 伝える力をつけ、気持ちを適切な方法で表すことができるようにする。

・実施期間　2019 年4月から 2020 年2月

・実施者　　上田 陽子　　(吉野ゆかり)

・実施者と対象児の関係　担任

【活動内容と対象児の変化】

＜ねらい 1 について＞

○対象児の事前の状況

(毎日の学校生活のルーティーンについて)

・朝の支度のスケジュールは、教員の声掛けや指示で行動している。18 分間くらいかかる。

・帰りの支度は、昼休みに遊びたい為に、比較的早くできるが、水筒や箸箱セットなど、片付け忘れが見られる。

(学習について)

・手指の運動性の苦手さや、形をとらえることの苦手さから、はさみを使うことや書くことを嫌がり、プリントを見ただけで怒り、少しでも書き間違えるとイライラしてしまうことがある。課題に対し、「できない」と言ってやらなかったり、怒ったりしてしまう。

(画像、動画への興味について)

・画像、動画に興味があり、家庭でも画像、動画を見る経験を積んでいた。iPadの操作に抵抗感がなかった。

○活動の具体的内容

毎日の学校生活のルーティーンを定着させ、自ら活動できるようにする。

・ スケジュール管理アプリを使い、見通しを持って朝の支度をすることができるようにした。児童が行動している画像付きの手順表をもとに、「やったねマーク」を確認しながら支度をした。(6 月~)

「Drop Talk」

特別支援学校のコーディネーターから助言を受け教室内の動線の調整をした。ロッカー近くに机を持っていき支度をすることにした。

苦手なこと（図工・書き取り・体育）も見通しを持ち、取り組めるようにする。

・自分が成功している動画を見て、成功体験を想起する。（体育、図工、休み時間）

「カメラ」

苦手なはさみを使って取り組めている動画を見せながら、「前にできたから、やってみよう。」と声をかけた。言葉を添えて画像を見ることで、自分がはさみを使えていたことが分かりハードルが下がったようで、取り組み始めることができた。「じょうずだね。やったね。」と声を掛け、課題が終わった後に、好きなキャラクターのイラスト等、児童にとって魅力的なものを得られるようにした。

・初体験の事は、あらかじめ動画・写真を見て苦手意識を持たないようにする。（授業中・休み時間）

「カメラ」

６年生のお手本の動画

〇対象児の事後の変化

・短時間で、朝の支度ができるようになった。自分でタイマーを調節して、時間が丁度よくなるように設定して、工程が終わると「やったね。」と喜んでいた。

・苦手なことや、初めてのことも個別に写真や動画を見ておくと、何度も挑戦するようになってきた。自分で動画を選んで見返すようになった。

<ねらい ２について>

〇対象児の事前の状況

・週末の出来事の絵日記、スピーチの場では、いつも決まった話をすることを好んでいた。

・自分の思い通りに、相手が気持ちを汲まないとパニックになることがある。

・発語は2～3語文で、自分の言いたいことを話し、会話が成立しないことが多い。

・発語は多いが、「どこに行ったの？」「何をしたの？」等の質問は無言になったり、決まったフレーズを繰り返したりして会話のやりとりは続かないことがある。

・「どっちがすき?」などの2択の質問には、答えることができる。理由を言うことは難しい。
・ひらがな、カタカナをよむことができる。
・絵日記で、「おかめなっとうをたべました。」と書くことができる。
・スクリーンキーボードはほとんど未経験と思われる。
・しりとりゲームのアプリをしたところ楽しむ様子が見られたが語彙の少なさも感じられた。

○活動の具体的内容

実体験を元にしたコミュニケーションを増やす

・週末に iPad を持ち帰り、写真機能を使い、週末の出来事を記録し、担任に「ByTalk for school」で送り、絵日記スピーチに活かす。(国語)

「カメラ」 「ByTalk for school」

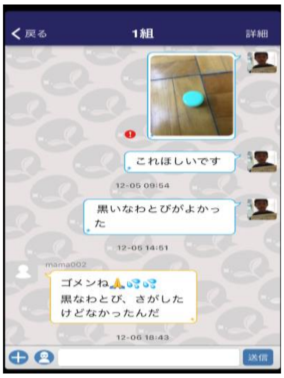
毎週月曜日の国語の時間に、「いつ、どこで、だれと、なんをして、どうおもったか」の順でスピーチをして、次に話した内容を絵日記に書く学習をした。「ByTalk for school」を使い、担任が送られてきた画像について聞き、自分の知らせたいことを写真を見て説明し、相手に伝わった実感が持てるようにした。

自分の気持ちを相手に伝わるように表現する手段を獲得する。

・SNS で、自分の不安感を言葉にして、相手に伝わるようにする。

(自立活動・休み時間・必要に応じて)

「ByTalk for school」



忘れ物や嫌なことがある時、パニックになる前にお母さんへメールするようにした。
落ち着いている時に、学校にあって、家にはない物を写真を撮ってお母さんに紹介するメールを送ることもあった。

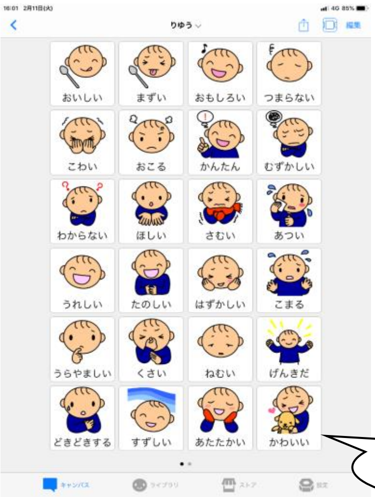
・コミュニケ[illegible]て、自分の気持ちを相手に伝わるようにする。

(6 月~自立活動・休み時間) えこみゅ

「池 いきたい」とタップして池に行ったり、「トイレ 痛い」とタップして音声を聞いて笑ったり、言葉遊びを楽しんだ。

ぽにょぽにょぽにょ
あはは

どっちがすきか、カードの絵を選んだ後に「なんで?」と友達に聞かれるゲームをした。コミュニケーションアプリから理由を選んで「〇〇から」という理由の音声を聞いて答える。　（自立活動 １月～）　「Drop Talk」



かわいいから

とり　かわいいから

〇対象児の事後の変化

・話題の種類が増えた。自分の言いたいことを画像を介し、正確に伝えられるようになった。画像を見ながら日記をスムーズに書けるようになった。写真の題材選びや撮影に関わるようになった。２月現在、画像が無くても詳しく書けるようになってきた。

・音声入力をし、自分の声を何度も聞きなおしていた。文字入力は、音声入力だけでなく、自分でキーボート入力をし、予測変換から文字を選ぶこともできるようになった。忘れ物に気付いた時や困った時に「お母さんにメールする!」と言い、メールを送っていた。送るうちにイライラが収まることがあった。

・友達とアプリを操作し、笑い合っていた。(12 月)会話のキャッチボールが続けられるようになってきた。
「なんで?」の友達の問いに「かわいいから」「おいしいから」等と答えられるようになった。(１月)最近は、「ふゆ ゆきがふるから」「たこやき ソースがついているから」等、アプリを使わないで自分なりの理由が答えられるようになってきた。(2月)

【報告者の気づきとエビデンス】

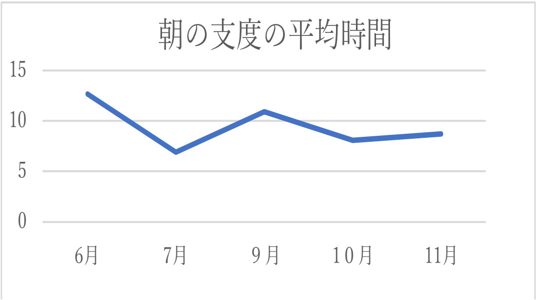
〇主観的気づき

ICT(画像や動画、コミュニケーションアプリ)を活用することにより、理解が深まり、見通しを持って、安心して自ら取り組めるようになり、本人の自信につながり、コミュニケーションの幅も広がったのではないか。

〇エビデンス(具体的数値など)

<１のねらいについて>

＊運動会の関係で、９月は遅くなっていたが、朝の支度が早くなり、当番活動をする時間ができた。



<2 のねらいについて>

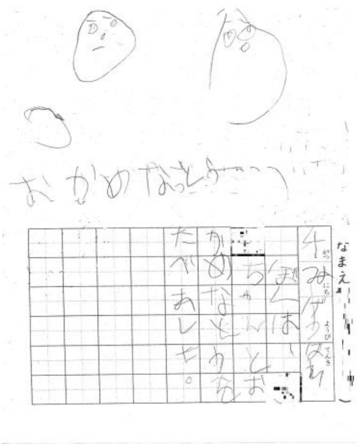
＊日記の内容に変化が見られた

話題のバリエーション(回)

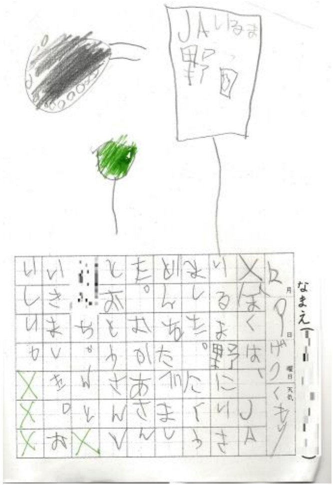
おかめ納豆を食べた	5
おでかけ	5
外食	6
どうぶつ	3
買い物	2
デイサービス	1

4月は、おかめ納豆の話が多かったが、話題のバリエーションが増えた

4／22



12／9



	4 月当初	7 月終わり	2 月
スピーチの様子	「おかめなっとうをたべました。」 担任「どこでなっとう買ったの？」→対象児童　無言	「から山に行きました。」スピーチをする。担任は、「山？」と思ったが、対象児の撮った画像を見ると唐揚げ屋の名前と分かる。	写真を撮ってこなくても話すことができるようになった。 「○○へいきました。おすいものをもらいました。いえいをもらいました。おとうさんと、おかあさんと、△ちゃんでいきました。」
絵日記の内容	「おかめなっとうをたべました。おいしかったです。」と書くことが多い。	「やおこーにいきました。おかめちゃんをみました。○ちゃんとみました。にこにこしてなかったです。」と書くことができた。	写真を見なくても絵が描けるようになってきた。
画像の撮影者	無	保護者と対象児童 	対象児童
絵日記の記述の様子	鉛筆を持つことも嫌がるときがあった。個別に静かな場所に移り書くこともあった。絵を描くためのヒントとして、おかめの絵を担任が描いて見せると「これじゃない」と怒る。	どこへ行ったまでは、スラスラと書くことができる。画像を見ながら、「誰と行ったー？」等と担任と会話をしながら、落ち着いて書き進められた。	自分で、声掛けなしに書くことができる。 担任の質問に詳しく答えられる。

○その他エピソード（画像などを含めて）

＊10月31日の特別支援学級校外学習「鉄道博物館」では、事前にパワーポイントで日程を知らせ、運転士体験の動画を見ておくことで、当日体験のやり方など迷うことなく、体験できた。

「鉄道博物館は、(電車が)行きすぎちゃった。」と言っていましたが、楽しかったようです。

今年は、運動会も持久走大会もパニックにならずに頑張る姿が見られてよかったです。

お母さん（送迎時の会話より）

＊言葉のキャッチボールが増えた。

・担任と「えこみゅ」を通して長く会話ができた。（9 月）

A児：「スーパー行きたい」 とタップ
担任：「どこの？」
A児：「オザム」「ぼくひとりで行っちゃうの。」
担任：「オザムで何買うの？」
A児：「ポテト」
担任：「何味のポテト?」
A児：「・・・」

・写真を撮ってこなくても、スピーチでき、質問に対し、説明することができ、絵を描くことができた。（2 月）

A児：「〇〇へいきました。おすいものをもらいました。いえいをもらいました。おとうさんと、おかあさんと、△ちゃんでいきました。」
担任：「いえいってなあに。」
A児：「なくなったひとのしゃしんです。」
担任：「だれのしゃしんなの。」
A児：「ひいじいちゃんの。」
担任：「おすいものって スープなの。」
A児：「こながはいってるの。」

・友達に自分から、話しかけて 会話をする姿が見られた。（2 月）

A 児：「△君、きょう、〇〇(デイサービスの名前)行く?」
△君：「いかない。」
A児：「いついくの?」
△君：「水曜日だよ。」

今後の見通し

この 1 年間で、大人とコミュニケーションする力以外にも、友達とのかかわりが増えてきたので、伸ばしていきたい。学校・家庭と連携し、ICT（画像や動画、コミュニケーションアプリ）を活用し理解を深め、安心できる環境の中で成功体験を増やし、認められる中で、自信をつけ、よりよいコミュニケーションができるようにしていきたい。